2006 年度 小委員会活動成果報告

（2007 年 2 月 19 日作成）

小委員会名	ヒューマナイジング小委員会	**主 査 名**：宇治川正人 **就任年月**：2005 年 4 月
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	環境工学本委員会 （環境心理生理運営委員会）	**委員長名**：加藤信介 **主 査 名**：讃井純一郎
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 **各年度活動計画** **（箇条書き）**	･ヒューマナイジングに関する情報を整理する。(2005～2008 年度) ･ケーススタディを収集する。(2005～2008 年度) ･業務として確立するため、手法を普及させる。(2005～2008 年度) ･刊行物を企画する。(2005～2008 年度)	
委員構成 **（委員名（所属））**	**委員公募の有無**：無 宇治川正人 (竹中工務店)、成田一郎、丸山玄 (大成建設)、山田哲弥 (清水建設)、讃井純一郎 (関東学院大学)、小島隆矢 (建築研究所)、植木暁司、小野久美子 (国土交通省)、古賀誉章 (東京大学)、影山優子 (日本社会事業大学)、佐藤隆 (JR 東日本)	
設置 WG **（WG 名：目的）**		
2005 **年度予算**	28,000 円	**ホームページ公開の有無**：**無** **委員会 HP アドレス**：

項 目	**自己評価**
委員会開催数	7 回（年度内計画を含む）
刊行物 **（シンポジウム資料等は除く）**	
講習会	１．4 月 28 日に「ニーズをカタチにする方法」（チュートリアル）を実施
催し物 **（シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）**	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 **（当初の活動計画と得られた成果との関係）**	１．チュートリアルを実施し、ヒューマナイジングの概要、「おもてなし感」について、広く提案することができた。 ２．「おもてなし感」について、委員が得意とする分野を対象に、より深く掘り下げた検討を行った。
委員会活動の問題点・課題	特に無し

＊ 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
＊ 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
＊ 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 **(4 段階評価)**	A
総合評価に関する **自由記述欄** **(理由、特記事項等)**	当初計画をほぼ計画通りに実施したので、A 評価とした。 ・4 月に建築研究開発コンソーシアムと共催で開催したチュートリアル「ニーズをカタチにする方法」では、定員（50 名）を超える参加があったこと、また非建築系の企業団体からの参加も見られ、ユーザーニーズの把握・合意形成に対する社会的関心の高さがうかがえた。 ・昨年から継続的に実施している、公共空間を対象とした「おもてなし感」についての検討は、より詳細かつ具体的なものとして進められている。小委員会として組織的に取り組むべき課題を定めて、次年度以降の検討課題としたい。 ・シンポジウムまたは公開研究会の開催について検討を行ったが、詳細な検討までには至っていない。2007 年度開催に向けて、内容を精査していくこととする。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。